

1 事業名

平成29年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「テニパークちゃれんじくらぶ」 ～ドキドキ わくわく・秋～

2 趣旨（事業の目的）

自然体験をとおして、自然を大切にする心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、ボランティア高校生・大学生また参加者同士の交流をとおして、コミュニケーションの力を育む。

3 期日 平成29年9月9日（土）～10日（日）

4 参加者 85名（盛岡市・滝沢市・八幡平市・雫石町の小学3～6年生）

5 後援 盛岡市教育委員会，滝沢市教育委員会，八幡平市教育委員会，雫石町教育委員会

6 内容

（1）日程

日 時	13:00		13:30	13:50	14:45		17:30		18:45	20:15		21:00	21:30
9/9 (土)		参加者受付	はじめの会	友だちいっぱい ちゃれんじ	ディナー ちゃれんじ	夕食	キャンプファイヤー ちゃれんじ		入浴	就寝準備	就寝		
日 時	6:30	7:00	7:30	8:45	9:00	12:00		13:00	14:00	14:30			
9/10 (日)	起床	洗面・準備	つどい	朝食	退所点検	オリジナルクラフト ちゃれんじ	昼食	片付け	終わりの会	解散			

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	佐々木 真里子
	企画指導専門職	工藤 祐幸
	事業推進係主任	藤根 智子
	事業推進係	山崎 啓陽
指導補助	法人ボランティア	11名

（3）企画のポイント

参加した小学生が、安全に楽しく2日間を過ごすことができるように、体験活動支援セミナーに参加している高校生や大学生を、グループリーダーとして配置し、高校生や大学生とのふれあいや体験活動をとおして、友達作りや班で協力することの大切さを学ぶことができる機会を提供した。

また、企画立案に際して、法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、活動全体をとおして、コミュニケーションが深まるようにプログラムを構成し、それぞれの活動において、参加者同士や高校生・大学生とのコミュニケーションを図れるように配慮した。「友だちいっぱいちゃれんじ」では、初対面の参加者の緊張を解

きほぐすために、体を動かしながら参加者同士が関わり合うアイスブレイクを計画した。その後の「ディナーちゃれんじ」では、グループリーダーが中心となって一人一人の役割を相談して決め、協力してピザとポトフを調理する中でコミュニケーションが深まるようにした。夜は先輩法人ボランティアの企画運営による「キャンプファイヤーちゃれんじ」を行った。全員が一つの輪になってゲームをしたり、フォークダンスをしたりして全員が一体感を感じられるように工夫した。「オリジナルクラフトちゃれんじ」では、グループで自然散策をしたり、チェックポイントでの課題を協力して解決したりして集めた素材を飾り付けるペン立て作りを計画した。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の教育委員会教育長、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の各小学校と報道機関へ開催要項とチラシを送付した。

(5) 運営のポイント

小学生7～8人の10グループに、体験活動支援セミナーの参加者を2～3名ずつグループリーダーとして位置付けて、小学生の参加者が不安を抱くことがないように心がけた。また、班のコミュニケーションを深めることで、参加者がより楽しく活動するために、グループリーダーが率先して子供たちに関わるようにするとともに、グループリーダーがうまく関わるできない班には、企画・運営に関わる先輩法人ボランティアが間に入りコミュニケーションのきっかけをつくるなどの配慮をした。

また、階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、スライドショー撮影ミーティング、生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き、安全に留意したプログラム展開を実践した。(補足資料1を参照)

7 成果とその普及

テンパークちゃれんじくらぶは、以前も参加して楽しかったので、今回も是非参加したいという参加者が約6割を占め、人気が高く期待されている事業となっている。

子供たちの中には、はじめは不安や緊張を感じていたところもあったが、各グループのリーダーや仲間と関わる中で打ち解け、仲良く活動を楽しむ姿が見られた。子供たちがグループリーダーに親しみをもって関わっていくことで、グループリーダーたちも次第に自信をもって、子供たちと関わるようになっていくなどの相乗効果も見られた。参加者のアンケートからも「全く知らないけれど『仲よくなりたいな』と思い、たくさんの友達と関わり合うことができよかったです。」「たくさんの友達といっしょに遊んだり、作ったりできてよかったです。『オリジナルクラフト』で自分だけの作品を作れてよかったです。次もテンパークちゃれんじくらぶに参加したいです。とてもいい思い出になりました。」「お兄さんたちがおもしろかったです。知らない学校の子と友達になれて楽しかった。学生の人とキャンプネームで呼び合えたのが楽しかった。次は、学生側になってふれ合いたいです。」「ディナーちゃれんじで、おいしいピザとポトフを作れてうれしかったです。大学生のお兄さん、お姉さんが優しくしてくれました。また参加したいです。」など、一つ一つの活動も楽しいが、他の学校からの参加者や高校生、大学生とのコミュニケーションが楽しかったという感想が多く寄せられた。活動中の様子からも、子供たちに不足しているといわれるコミュニケーション能力の向上につなげることができた。1泊2日という短い期間ではあるが、十分に満足できる活動を提供できたものとする。

8 今後の課題

グループリーダーだけでなく、参加者である子供たちも主体的に行動することができるように、活動に対しての見通しと安全管理の意識をもたせる必要がある。また、リーダーや子供たちがグループで工夫をして活動できる時間として、2日目の昼食後に休憩・自由遊びの時間を設定したが、そのねらいを明らかにした上でプログラムに位置付けることで、コミュニケーションの幅の広がりにつなげることができると感じた。



友だちいっぱいちゃれんじ
(アイスブレイク)



ディナーちゃれんじ
(野外炊事)



オリジナルクラフトちゃれんじ
(創作活動)

補足資料1 テンパークちゃれんじクラブ及び体験活動支援セミナー 組織図

